

令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 総合的な学習の時間

改善の重点

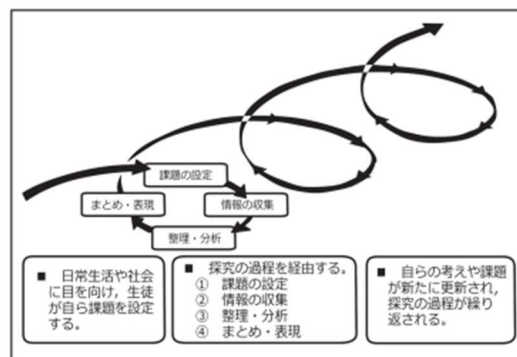
- ① 総合的な学習の時間をとおしてどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にし、指導計画と評価の計画を作成すること。
- ② 各教科等との積極的な関連を図りつつ、探究的な学習の過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）が発展的に繰り返されるようにするため、特に「課題の設定」を工夫すること。

1 設定理由

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的・横断的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すものであり、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるものである。学校では、各学校における教育目標を踏まえて、総合的な学習の時間を通して、どのような資質・能力を育成するのか明確にし、その実現を図る必要がある。資質・能力の育成に向けては、探究的な学習の過程を充実させることが重要であり、探究的な学習の過程において、異なる多様な他者と協働して取り組む学習を行う、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心に基づく学習を行うなど、創意工夫を生かした教育活動を行うことが求められる。そのためにも各学校において、年間や単元など、内容や時間のまとまりを見通した指導と評価の計画を作成することが重要である。

②では、探究的な学習の過程における「課題の設定」について挙げている。総合的な学習の時間は、生徒が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。そのためには、教師が意図的な働きかけをすることが重要である。例えば、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりするなど、学習対象との関わり方や出会わせ方などを、教師が工夫する必要がある。また、課題を設定する場面では、対象に直接触れる体験活動が重要であり、そのことが、その後の息の長い探究的な学習活動の原動力となる。探究的な学習の過程が、図のように発展的に繰り返されるようにするため、生徒が自ら課題意識をもつ授業展開が重要である。

探究的な学習における生徒の学習の姿



2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 総合的な学習の時間をとおしてどのような資質・能力の育成をめざすのか、全体計画を踏まえ、単元の目標や評価規準において具体的に設定した計画を作成すること。
- ② 探究的な学習の過程を発展的に連続させるため、課題の設定の場面における学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫すること。

(2) 参考とすべき資料

- 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所、令和2年7月
- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省 令和4年3月